

とことん知りたい! 台湾! 第7回

こんにちは、^{たいゆうゆうこうかい}台熊友好会です。2024年1月13日、4年に一度の台湾総統選挙において民進党、頼清徳氏が当選（5月20日就任式）したことは記憶に新しいかと思いますが、このことは、台湾のこれからに大きな意味を持つと考えられるため、今回は、台湾の歴史に想いを馳せながら、少しだけ政治・経済に絡むお話をさせていただきます。



台南市長から台湾総統へ

頼清徳氏は2010年から2017年まで、台南市長を二期務めた人物です。ほぼ時期を同じくして台南に住んでいた私にとっては、台南市長の印象が強い人物になります。頼氏は市長時代、非常に精力的に学校や地域の行事に足を運んでおり、私も教育部主催の会議で見かけたことがあります。



頼氏は、民進党（民主進歩党）の中でも独立志向が強い人物として知られますが、その人柄もさることながら鋭い洞察力と行動力により、台南では人気を博していました。この頼氏、実は台南市長の任期満了を待たずして、蔡英文総統から急遽行政院長に指名されたため、台南は一時市長不在の状態にあったと知り、なんとも台湾らしいと感じました。

台湾は、気候において北回帰線を境に、北は亜熱帯、南は熱帯に二分されます。歴史的背景が大いに影響しているからに他なりません、政党に関しても北は国民党、南は民進党支持者が多いのだと聞いたことがあります。台湾の総統選挙は直接選挙であり、若い世代も含め多くの人が政治に関心を寄せています。

1996年に第9代台湾総統選挙より導入された直接選挙は、4年に一度で2選まで、とされるなか3期同じ党が政権を握ることは、これまでなかったため非常に注目を集めていますが、国会に当たる立法院の委員長には、親中派で一癖も二癖もある国民党（中国国民党）韓国瑜氏が就くことにより、頼氏は非常に難しい舵取りを強いられることとなります。

政治と生活

台湾では、政治が人々の生活に与える影響が、日本と比べてはるかに大きいのです。その根底にあるのが言わずもがな「一つの中国」です。2008年から2016年まで国民党の馬英九氏が総統の頃に、台湾と中国との関係は大きく変わりました。例えば私の勤めていた台南の私立大学も、それまでを巻き返すかの如く、中国の大学との協定締結に邁進。元々中央アメリカや南米からの留学生はいたものの、2010年頃から「大陸学生（中国からの留学生のことを学内ではこう呼んでいました）」が続々と増えていきました。「大陸学生」には、苦い思い出があるのでよく覚えています。「国際課」と称していた部署は、中国を意識した「国際・海峡兩岸交流課」へと急遽名称変更され、この台湾の「転身の速さ」に驚きました。

その頃初めて上海に旅行した友人は、「入国の際、台湾居民

来往大陸通行证のみ（パスポート提示なし）で入国できた」と複雑な心境だったようです。当然ながらこの時期、中国人旅行者も急増しましたが、私が台湾を離れる数年前には、学内で「大陸学生」をみかけることはなくなりました。

ECFA (Economic Cooperation Framework Agreement: 兩岸經濟協力枠組協定)

先の馬総統のもと、2010年6月台湾と中国の間で、経済連携協定 ECFA が締結され「ア－リーハーベスト」と称し、台湾側では中国からの輸入品 267 品目、中国側では台湾からの輸入品目 539 品目に対し、3 年を目処に関税の段階的引き下げが進められました。一方金融部門を含むサービス分野でも、急速に市場開放へ向けた動きがみられ、国会が大荒れする中、2014 年の「ひまわり学生運動」がこれに待ったをかけた形です。私のいた大学からも講義を欠席し、台北へ足を運んだ学生がいました。

その後も、貿易協定に関し交渉は続けられたものの進展はみられず、2016 年国民党から民進党へと政権が交代し、中断してしまっただけです。3 期目の民進党政権誕生を目前にした昨年 12 月 21 日、中国から既にゼロ関税になっていた石油化学関連 12 品目（2009 年以前は関税率 2%～10%）に対し「関税引き下げ措置の停止」が発表され、ECFA は完全に後退してしまいました。

行政院発表の 2022 年データによれば、台湾の対外貿易総額は、9,071 億 2,000 万ドル。輸出が 4,795 億 2,000 万ドル、輸入が 4,276 億ドル。最大の輸出相手国は中国で、その割合は 38.8%（前年比 1.6%減）。続いてアセアン（東南アジア諸国連合）が 16.8%（前年比 14.8%増）。アメリカが 15.7%（前年比 14.3%増）となっており、依然中国向けの比率が高いものの、他国へのシフトもみてとれます。

ジェトロの試算によれば、今回の対象品目の中国の輸入額は、25 億 1,085 万ドルとされており、台湾の総輸出額に占める割合は、それほど大きくはなく、台湾側は「既に生産拠点等も分散済みであり、さほど大きな影響はない」としています。

台湾の学生に台湾についてプレゼンをさせると、得てして「台湾」と表記しそうな箇所が「我が国」と書かれたものでくわします。当時そこはかかない違和感を覚えたものですが、これも台湾の複雑な立ち位置の表れなのでしょう。か「ねじれ」と表現される次期頼政権の動向から目が離せそうにありません。

（上記内容は、個人の見解であり、所属する組織の公式見解ではありません）

（石橋 妙子）

中国語一言レッスン

ジェンダジャーダ
「真的假的？」

友人や親しい間柄での会話の中で使われる「マジで？」です。「本当に、真実」の「真的」と「偽り、嘘」の「假的」が一緒になって、その驚きを表しています。「真假？（ジェンジャー？）」は省略形です。どちらかと言うとカジュアルな表現であり、「真的嗎？（ジェンダマ？）」と素直に「本当ですか？」を使った方がよい場合もあるのでお気をつけください。



Facebook



Instagram